

CSF（豚熱）に対する防疫体制の更なる充実と
ワクチン接種制度の見直し等について

飼養頭数全国第4位の養豚県である本県では、知事を中心として、CSF（豚熱）への防疫について、積極的に対応し、ワクチン接種も進めてこられたことは大いに評価することです。

また、先月下旬に県内で発生した子豚のCSFの防疫措置についてのご尽力にも感謝申し上げます。

しかし、防疫体制の目を掻い潜り、発生してしまったCSF感染については、多くの住民が今後拡大しないか憂慮しております。周辺市町村においても、子豚の盗難事件の上に、CSFの脅威と、養豚農家には不安が広がっています。

そこで、CSF発生の原因究明を進めるとともに、野生イノシシの捕獲や防護柵の設置及び経口ワクチン散布などの再確認並びにカラス等からのウイルス侵入を防ぐための防鳥ネット整備など考えられる感染経路の遮断を行うよう要望します。

次に、養豚農家では全頭ワクチン接種が行われていますが、生後70日以降の未接種子豚がCSF感染してしまったことから、適切な時期にワクチン接種出来るよう家畜防疫員及び獣医師などの体制整備並びに生産者負担の更なる軽減なども進めるべきと考えます。

併せて、豚舎等における衛生管理の再徹底と係る費用に対する生産者負担の軽減を図るとともに、感染してしまった養豚農家及び県内生産豚を対象とした風評被害が広がらないように対応方よろしくお願いいたします。

令和2年10月6日

群馬県知事 山本 一太 様

群馬県市長会長 清水 聖義



群馬県町村会長 茂原 荘一

